



2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年2月5日

上場会社名 株式会社中京医薬品 上場取引所 東
コード番号 4558 URL <https://chukyoiyakuhin.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 米津 秀二
問合せ先責任者 (役職名) 取締役コーポレート本部長 (氏名) 飯田 亨 TEL 0569-29-0202
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無: 無
決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第3四半期の業績 (2024年4月1日～2024年12月31日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	5,059	3.0	262	△8.4	272	△9.4	159	72.3
2024年3月期第3四半期	4,912	9.7	286	46.7	300	43.3	92	△19.1

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	15.00	—
2024年3月期第3四半期	8.72	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第3四半期	5,580	2,637	47.3
2024年3月期	5,082	2,522	49.6

(参考) 自己資本 2025年3月期第3四半期 2,637百万円 2024年3月期 2,522百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	2.50	—	2.50	5.00
2025年3月期	—	2.50	—	—	—
2025年3月期 (予想)	—	—	—	2.50	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2025年3月期の業績予想 (2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,200	1.2	140	9.3	160	8.8	55	—	5.16

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年3月期3Q	11,660,734株	2024年3月期	11,660,734株
② 期末自己株式数	2025年3月期3Q	1,002,827株	2024年3月期	1,013,529株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年3月期3Q	10,653,685株	2024年3月期3Q	10,640,854株

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー： 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7
(セグメント情報等の注記)	7

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、社会経済活動の正常化が進み、抑えられていた消費や投資が回復基調となり景気の持ち直しが見られました。他方、長期化するウクライナ情勢や中東情勢の悪化、世界的なインフレ急拡大とそれに伴う各国中央銀行の金融引き締め政策や為替変動による世界経済の下振れ懸念があります。国内においては、雇用や所得環境が改善し、緩やかに回復していますが、円安基調の継続や物価上昇などにより消費者の購買意欲が低調に推移するなど、景気の先行きは依然として予断を許さない状況が続いています。

当業界におきましても、個人消費の回復傾向は見られたものの、原材料の高騰や円安、仕入・物流コストの増加や人手不足と賃金コストの上昇など、新たなリスクの顕在化による経営環境への懸念要因が続き、厳しい状況が続きました。

このような環境の中で、当社は企業理念として掲げる「健康づくり、幸福づくり、人づくり」の具現化に向けて、お客さまの生活を支えるための商品開発や情報・サービスを多角的・多面的に拡充するトータルライフ・ケアを推進してまいりました。また、当社ならではの「ふれあい業」による人と人との絆によるヒューマンネットワークを広げ、お客さまや市場に継続的に評価をいただくことに努め、収益力と企業体質の強化を図ってまいりました。

その結果、当第3四半期累計期間における売上高は5,059百万円(前年同期比3.0%増)、営業利益は262百万円(前年同期比8.4%減)、経常利益は272百万円(前年同期比9.4%減)、四半期純利益は法人税等調整額(損)39百万円を計上したため159百万円(前年同期比72.3%増)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①家庭医薬品等販売事業(小売部門・卸売部門)

小売部門においては、仕入・原料コスト等の増加に対応すべく販売価格等の改定を実施し、利益率の改善に努めました。また事業基盤の強化として配置薬などの委託販売を推進することにより、安定した収益基盤の確立や新たな顧客への販売と継続的な販売に取り組みました。尚、多様化する社会にあったトータルライフ・ケアの推進の為に商品開発やリニューアルを実施しました。特に冬季などの季節商品のみならず、「中京プロポリスMEGA85」や「Hi DHAトゥディ75」、「大蒜人蔘W」などが多くのお客さまから好評を博しました。しかしながら、売上高やセグメント利益においては、一人当たりの生産性は向上したものの、営業人員の不足により減少となりました。

今後は積極的な採用活動と共にお客さまとのふれあいの強みを活かして更なる新しいサービスや価値創造に注力してまいります。

卸売部門においては、他企業のストアPB(プライベートブランド)の拡大に努めました。更に、冬季商品の継続的な販売、防災・備蓄対策商品等におけるペットボトル飲料の需要も高まり、販売に注力してまいりました。EC事業(インターネット通信販売事業)につきましても強化し、安定的な収益基盤の構築を図りました。

その結果、売上高は4,504百万円(前年同期比3.1%増)、セグメント利益は182百万円(前年同期比15.5%減)となりました。

②売水事業部門

売水事業部門においては、10月以降においても例年以上の高温に伴い飲料水(12Lボトル)の売上は堅調に推移しました。近年、防災対策としての水の備蓄や熱中症対策として、ミネラルウォーター宅配市場の必要性が高まっており、中核事業の1つとして確立することを目標としております。また水関連商品等のサイドメニューのラインアップも増やし、お客さまへの利用促進を図りました。更に市場拡大しつつある浄水型サーバーも取り入れ、新たな市場へのチャレンジも行いました。

その結果、売上高は555百万円(前年同期比1.4%増)、セグメント利益は80百万円(前年同期比12.8%増)となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産は3,390百万円となり、前事業年度末に比べ578百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金の増加323百万円及び受取手形、売掛金及び契約資産の増加252百万円によるものであります。固定資産は2,190百万円となり、前事業年度末に比べ80百万円減少いたしました。これは主に無形固定資産の減少40百万円によるものであります。

この結果、総資産は5,580百万円となり、前事業年度末に比べ498百万円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債は2,138百万円となり、前事業年度末に比べ12百万円増加いたしました。これは主に短期借入金の増加140百万円によるものであります。固定負債は805百万円となり、前事業年度末に比べ370百万円増加いたしました。これは主に長期借入金の増加373百万円によるものであります。

この結果、負債合計は、2,943百万円となり、前事業年度末に比べ383百万円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産は2,637百万円となり、前事業年度末に比べ114百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金の増加105百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は47.3% (前事業年度末は49.6%)、1株当たり純資産額は247.44円 (前事業年度は236.95円) となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の業績予想につきましては、2024年5月14日付けにて発表しました業績予想からの変更はありません。詳細につきましては「2024年3月期 決算短信」をご覧ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2024年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,107,433	1,430,445
受取手形、売掛金及び契約資産	533,353	786,074
電子記録債権	7,371	31,708
商品及び製品	541,218	548,406
委託商品	454,850	440,116
仕掛品	88	90
原材料及び貯蔵品	32,433	39,245
その他	141,288	124,096
貸倒引当金	△6,285	△9,492
流動資産合計	2,811,752	3,390,692
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	444,605	441,764
土地	1,198,806	1,198,806
その他(純額)	14,053	11,501
有形固定資産合計	1,657,466	1,652,072
無形固定資産		
投資その他の資産	168,734	127,914
前払年金費用	91,597	91,725
その他	353,413	318,830
貸倒引当金	△180	△287
投資その他の資産合計	444,830	410,268
固定資産合計	2,271,031	2,190,255
資産合計	5,082,784	5,580,947
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	240,984	312,518
電子記録債務	128,237	28,058
短期借入金	970,000	1,110,000
1年内返済予定の長期借入金	153,359	162,782
未払法人税等	46,281	48,399
賞与引当金	149,970	70,115
その他	436,861	406,741
流動負債合計	2,125,693	2,138,614
固定負債		
長期借入金	34,454	407,512
退職給付引当金	156,794	159,773
株式給付引当金	42,373	45,197
資産除去債務	2,580	—
長期未払金	178,120	178,120
その他	19,934	14,521
固定負債合計	434,256	805,124
負債合計	2,559,950	2,943,739

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2024年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	681,012	681,012
資本剰余金	528,298	527,622
利益剰余金	1,586,660	1,692,175
自己株式	△300,276	△297,116
株主資本合計	2,495,694	2,603,694
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	27,139	33,513
評価・換算差額等合計	27,139	33,513
純資産合計	2,522,834	2,637,208
負債純資産合計	5,082,784	5,580,947

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
売上高	4,912,930	5,059,696
売上原価	1,965,830	2,142,892
売上総利益	2,947,100	2,916,804
販売費及び一般管理費	2,660,394	2,654,301
営業利益	286,705	262,503
営業外収益		
受取利息	14	68
受取配当金	1,354	1,701
受取家賃	12,541	11,168
その他	3,197	2,974
営業外収益合計	17,107	15,913
営業外費用		
支払利息	3,011	5,998
その他	0	1
営業外費用合計	3,012	5,999
経常利益	300,801	272,416
特別利益		
固定資産売却益	—	301
特別利益合計	—	301
特別損失		
商品評価損	122,232	—
固定資産除売却損	—	2,662
特別損失合計	122,232	2,662
税引前四半期純利益	178,568	270,055
法人税、住民税及び事業税	85,465	71,227
法人税等調整額	323	39,001
法人税等合計	85,788	110,229
四半期純利益	92,780	159,825

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	40,753千円	41,090千円
のれんの償却額	31,979	31,979

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間（自2023年4月1日 至2023年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期損益 計算書計上 額 (注) 3
	家庭医薬品等販売事業		売水 事業部門	計				
	小売部門	卸売部門						
売上高								
小売販売及び 卸売販売	2,405,937	1,160,673	542,685	4,109,295	1,586	4,110,882	—	4,110,882
配置販売	802,048	—	—	802,048	—	802,048	—	802,048
顧客との契約 から生じる収益	3,207,985	1,160,673	542,685	4,911,344	1,586	4,912,930	—	4,912,930
外部顧客への売上高	3,207,985	1,160,673	542,685	4,911,344	1,586	4,912,930	—	4,912,930
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	5,114	5,114	—	5,114	△5,114	—
計	3,207,985	1,160,673	547,799	4,916,458	1,586	4,918,045	△5,114	4,912,930
セグメント利益	197,084	18,375	71,246	286,705	—	286,705	—	286,705

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含んでいない事業セグメントであり、保険事業部門等を含んでおります。

2. 調整額はセグメント間取引消去によるものです。

3. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期累計期間（自2024年4月1日 至2024年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期損益 計算書計上 額 (注) 3
	家庭医薬品等販売事業		売水 事業部門	計				
	小売部門	卸売部門						
売上高								
小売販売及び 卸売販売	2,348,588	1,425,849	553,615	4,328,053	1,257	4,329,311	—	4,329,311
配置販売	730,384	—	—	730,384	—	730,384	—	730,384
顧客との契約 から生じる収益	3,078,973	1,425,849	553,615	5,058,438	1,257	5,059,696	—	5,059,696
外部顧客への売上高	3,078,973	1,425,849	553,615	5,058,438	1,257	5,059,696	—	5,059,696
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	1,983	1,983	—	1,983	△1,983	—
計	3,078,973	1,425,849	555,598	5,060,422	1,257	5,061,680	△1,983	5,059,696
セグメント利益	159,750	22,385	80,366	262,503	—	262,503	—	262,503

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含んでいない事業セグメントであり、保険事業部門等を含んでおります。

2. 調整額はセグメント間取引消去によるものです。

3. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。